

POINT 4

仏教文化の香り高い出土品

(鳥取県指定保護文化財)

発掘調査では、蓮の花や鬼の文様の瓦（軒瓦・鬼瓦）、粘土で作られた仏像（埴仏・塑像）、銅製の匙・獣頭、仏具の鑄型などが出土しました。これらの出土品からも、伯耆国東部を代表する重要な寺院であったことや、活発な宗教活動とそれを支える様々な道具製作を行っていたことがうかがわれます。

地方寺院で唯一！



鬼面文鬼瓦

鬼の全身像を表現した鬼瓦です。鬼面を中央に大きく表し、両手足を置き蹲踞の姿勢をとっています。また、目と眉をつり上げ、牙を剥いて威嚇する様を表現しています。地方において全身像を表現した鬼瓦は大御堂廃寺跡を除いて例がありません。縦約35cm。

正倉院宝物と同じ！



銅製匙

総長26cm。柄表面の縁に細い線が刻まれています。柄の先端が、使用によりすり減っています。朝鮮半島・新羅からもたらされた品とされる同形の匙が奈良県の正倉院に納められています。

東アジアで唯一！



銅製獣頭

全長約3cmの小さな飾金具です。龍または獅子の頭を模したものと思われ、口を大きく開き牙をむきだしにして威嚇する様を表現し、細部は毛彫りによって仕上げられています。東アジアでも類例がない貴重な出土品です。

地方寺院では種類が豊富！



軒瓦

軒瓦は、屋根の軒先にふかれた瓦で、蓮の花などの文様がみられます。大御堂廃寺では、軒丸瓦15形式19種、軒平瓦5形式と、非常に種類が多く、しかも整ったデザインであることが特徴です。瓦から寺の創建は7世紀中頃、本格的に整備されたのが7世紀後半と推定されます。

博物館へ行ってみよう！



倉吉博物館HP

出土品の実物は、倉吉博物館（倉吉市仲ノ町）で見ることができます。

国指定史跡

大御堂 廃寺跡

NATIONAL HISTORIC SITE, RUINS OF OOMIDOU HAIJI TEMPLE

山陰が誇る大伽藍と仏教文化

ACCESS

倉吉インターチェンジから約10分
はわいインターチェンジから約20分

JR倉吉駅から 9分（パークスクエア線・パークスクエア経由）県立美術館前下車すぐ
8分（市内線）倉吉パークスクエア北口下車 徒歩5分



お問合せ

倉吉市経済観光部 文化財課

〒682-8633 鳥取県倉吉市堺町2丁目253番地1
TEL: 0858-22-4419 FAX: 0858-22-2303
E-mail: bunkazai@city.kurayoshi.lg.jp

倉吉の観光は
コチラ



観光駐車場の
混雑状況はコチラ



令和7年（2025）3月刊行

ここがスゴイ！
4つのポイント
を紹介！



所在地 / 鳥取県倉吉市駄経寺町2丁目
史跡指定 / 平成13年(2001)1月29日
指定面積 / 33,503.47m²

復元イメージ図（南西から）CG作成：米子工業高等専門学校 M.TOGO

大御堂廃寺跡とは

大御堂廃寺跡は、飛鳥時代（7世紀。律令国家が始まった時代）に創建された山陰地方最古の古代寺院跡です。

出土した土器に書かれた文字「久米寺」から寺院名がわかり、伯耆国の役所（伯耆国庁）が置かれた久米郡の中心的な古代寺院といえます。奈良時代（8世紀前半）には下の復元イメージ図のように建物が整備され、平安時代（10世紀ごろ）まで存続したと推定されています。



「久米寺」と書かれた土器



塔の心柱を支える礎石（奥）と四天柱を支える礎石（手前）

古代寺院とは

古代寺院は、願いをかなえるため仏に祈り、法会を行う場所です。僧が共同生活をして、法力を得るため修行・勉強を行いました。大御堂廃寺跡では、次のような建物・施設が確認されています。

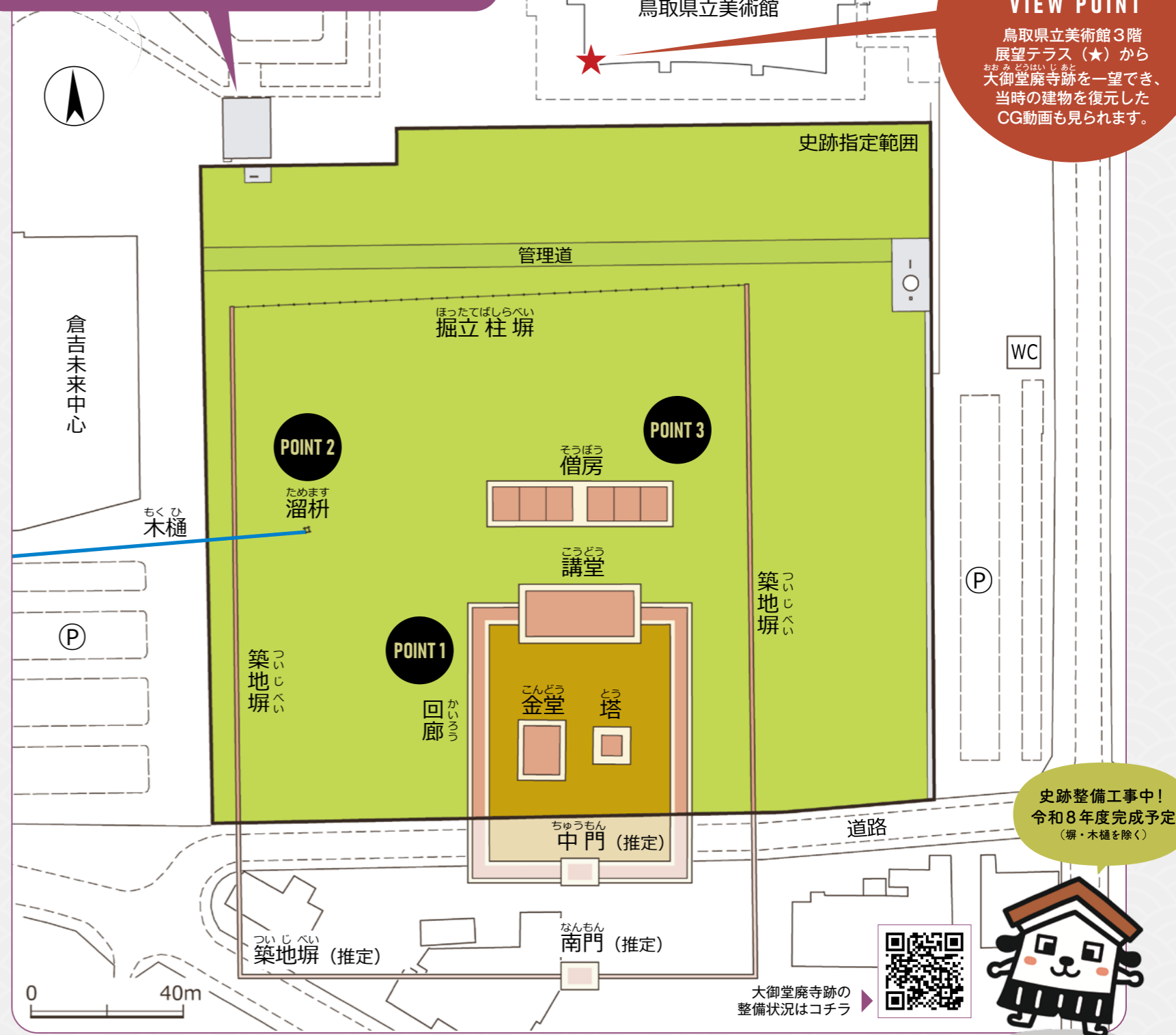
- 塔** 釈迦の遺骨（舍利）をまつる施設を起源とし、寺院のシンボルといえる重要な建物。
- 金堂** 本尊仏をまつる重要な建物。
- 講堂** 説教や経典の講義をする建物。
- 回廊** 最も神聖な塔・金堂の建つ空間を囲む廊下状の建物。

- 僧房** 僧が居住する建物。
- 築地塀** 瓦葺の土塀。
- 掘立柱塀** 地面に掘った穴に柱を立てた塀。
- 木樋** 木製の水道管。
- 溜枮** 木製の水溜。



復元イメージ図 CG作成：米子工業高等専門学校 M.TOGO

大御堂廃寺跡ガイド施設（建設予定）



VIEW POINT
鳥取県立美術館3階展望テラス（★）から大御堂廃寺跡を一望でき、当時の建物を復元したCG動画も見られます。

史跡整備工事中！
令和8年度完成予定（塀・木樋を除く）



POINT 1

建物の配置が特徴的！

大御堂廃寺跡では、金堂の正面が一般的な南向きではなく、東の塔を向くことが特徴です。同じような建物配置は、福岡県観世音寺や宮城県多賀城廃寺（ともに7世紀後半）などの国内10数カ寺のみで確認され、九州や東北といった広い地域で重要な寺院に用いられました。

POINT 2

古代の上水道施設を発見！

寺院西方の水源から、全長96mの木樋を流れてきた水を、1m四方の溜枮に貯めていました。ここで仏前に供える水や生活用水をくんでいたと考えられます。このような木樋と溜枮からなる上水道施設は、奈良時代には他に例がなく、非常に珍しいものです。



木樋と溜枮（西から）

POINT 3

僧の住まいを発見！

僧房は東西に細長い建物で、中央に南北通路が設けられています。通路の両側に各3部屋、計6部屋があり、1部屋は約40畳の大きさで、少なくとも6人程度の僧が居住できたと考えられます。僧房の大きさや間取りが明らかになることは極めて珍しい発見です。



僧房の現地説明会風景（東から）